おおさき福祉のページ vol.54

編集製作／社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会
〒989-6154 宮城県大崎市古川三日町二丁目5－1
大崎市古川保健福祉プラザ（fプラザ）内
TEL 0229(21)0550　FAX 0229(24)1158
URL　http://www.osaki-shakyo.com
製作協力／株式会社大崎タイムス社

おおさき災害フォーラム～東日本大震災を忘れない。地域の絆と支え合い～　360名参加

日時：平成24年3月2日㈮　会場：大崎生涯学習センター（パレットおおさき）
主催／大崎市社会福祉協議会　共催／大崎市ボランティア連絡協議会
後援／大崎市・大崎市民生委員児童委員協議会・宮城県社会福祉協議会・㈱大崎タイムス社

基調講演

「絆」という言葉が流行語になったが、これからは「伴（とも）に」という言葉が大事になる。

今回の震災で、大崎市で「互助」「共助」の精神が生かされたかどうかを検証し、今後に生かすことが必要。

17年前の阪神・淡路大震災の際、気仙沼市から水を積んだタンカーが被災地に来たが、それは本当にタイムリーな支援だっただろうか。今回の震災でも、やみくもな支援はなかったか。お互いの思いやペースを考えないといけなかったのではないか。

民生児童委員の災害時要援護者支援、自主防災組織などによる支援で多くの命が救われたが、使命感を持ち行動した民生委員や消防団員の多くも公務中に亡くなった。解決策は簡単には出ない。

ハザードマップ（の避難場所）を過信し、津波から逃げ遅れた人もいる。避難訓練が犠牲を広げた面もある。他力本願ではなく、自分で考えるべき。

自治体、病院、社協などそれぞれが一生懸命だった。しかし、横のつながりはどうだったか。多くのボランティアが駆け付けたが、本当に被災者を勇気づけたのは「ボランティアセンターへの）登録は面倒だ」と言って活動した人たちではなかったか。支援の空白となった内陸部を支えた地元住民、特に学生や若者は、もっと評価すべきだ。名取市は、中高生のボランティアグループが市は市民による提言も行われ始め、昨年9月に「みんなの新しい気仙沼」として目指す町の9イメージを打ち出した。初期から様々な人を巻き込むことが必要。

地域福祉力をどうやって高めるか。命と暮らしを守るための原点に立ち返り、個人情報の壁を誰かのせいにしてはいけない。核家族化で自治会の必要性を知らずに育った人もいるが、私が住む大阪の自治会は加盟率88%。犯罪防止用の蛍光灯設置は自治会がしていると言ったところ、入会者が増えた。福祉の教育を最重要視し、若者の力を生かすことが重要。

「地域活動があると言っても若い人は参加しない」という声があるが、会員制にしたり、「うちは歴史があるのよ」などと言って敷居を高くしてはいないか。相手に合わせた対応をすれば、入りやすくなる。困ったときにすぐ行政や議員を頼るのではなく、身近に相談できる人がいる地域にしないといけない。

縦割りは弊害でしかない。（各機関が）水平につながるため、殻を破り、相互支援体制づくりをすることが必要。

見守りや支え合いの中で「被災者にしない」「要援護者にしてしまわない」「子どもたち、若者を住民と捉え、復興の担い手とする」ことが重要。「支援者主体の支援」をしてはいけない。子どもたちからは「僕たちにも頼ってほしい」という声が聞かれた。

これからの取り組みは、一人一人を大切にするつながりのある地域づくりが大事だ。

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議　幹事
桑原 英文 氏

東日本大震災から見えた地域の絆

3・11東日本大震災。その時地域は…

パネルディスカッションでは、災害に強い地域づくりを目的に、石巻、大崎両市社協や民生委員らが意見を交わした。

宮城県民生委員児童委員協議会の遠藤敏榮会長（大崎市民児協会長兼務）は、震災で県内の仲間（民生委員）16人が亡くなり、7人が今も行方不明。弱い人を助ける使命感の行動だったのだと思う。

多くの民生委員が地震直後から高齢者などの安否確認に歩いた。しかし、震災時に地元におらず、安否確認へ行けない場合もある。区長や自治会長などと一緒に行動することが必要だ。

民生委員も人間。弱者を助けるため頑張るが、最後はどこまでしないといけないのか。自分のことは、ある程度は自分で守ることが必要ではないか。

少子高齢化が進む地域をどう守るか。高齢者同士の助け合い、小さい単位のコミュニティがより重要になる。

大崎市社会福祉協議会評議員の大山厚昭 氏（鬼首地域づくり委員会）は、（2007年2月に）国道108号線が土砂崩れした際の支援に感謝申し上げたい。

遠藤　敏榮 氏

小さい単位のコミュニティがより重要

今回の震災で、鬼首出張所にいた職員で地区内を回った。今回はほとんど被害はなかった。

翌3月12日午後、石巻市牡鹿へ木の伐採に行った住民が「帰る」とメールしたきり帰って来ないことが分かった。電話も通じず、何もできなかった。13日朝に出発しようとしたら無事帰ってきた。地震時は（伐採に行った山から）下山途中だったという話で、その間牡鹿の方に食事などのお世話になったという。恩返ししたいと考えていたので、物資を集めたが、連絡が取れた牡鹿の方から「炊き出しは大丈夫。それよりお風呂に入りたい」と言われたので、片道3時間半かけ温泉のお湯を避難所に届け続けた。牡鹿に届けようと集めていた物資は、大崎市社協が運営する特別養護老人ホーム・敬風園に届けた。

結いの心で地域づくりをすることが鬼首の目標。今後、我々が災害に遭うことも必ずあり、支援することを考え、若者が地区外へ働きに出るため、昼は若者がほとんどいなくなることも考えないといけない。

牡鹿とのつながりを一過性にせず、海の子と山の子の一泊相互交流を始めた。子どもたちがつながり、親ともつながり、末永く交流したい。津波で被災した沿岸部は大変なので、（経費面は）4～5年は我々が応援し相互交流していきたい。

大山　厚昭 氏

結の心で地域づくり

石巻市社会福祉協議会災害復興支援対策課の阿部由紀課長補佐は、県、石巻市、本会の3者が石巻市災害ボランティアセンター設置の覚書を締結したのは2005年度。社協は津波が来る可能性が高い地域にあったので、石巻専修大学を借りることで調整した。「災害ボランティアフォーラム」を毎年開き、日ごろの備えを伝えることを最大の課題にしていた。

区長や自主防災組織役員の家へ行くと「おお、来たか」と言っていただけるよう顔つなぎが大事。全国から多くのボランティアに入っていただいたが、標準語や関西弁の人だけなのと、地元なまりの人がいるのとでは安心感が全然違う。社協職員がボランティアを行う家まで同行し、市民に安心感を持っていただくことができた。態度の悪いボランティアの一部を本気で怒り、「帰れ」と言ったこともある。（週刊誌の）AERAの記事でも紹介されたが、夜にボランティア参加団体で会議をしたので、どこで何が不足しているか把握することができた。

被災者個人を支えるため、一人一人にアプローチしていくことが必要。市内の仮設住宅は約7000世帯あり、1世帯平均2・4人が住んでいる。道路が復旧し、（仮設住宅の人を含めた）車で橋がものすごく渋滞するようになった。

自分の家を直しながら住む人は、どこからも支援がない。みなし仮設や避難所外避難者に地域格差があると電話してくれた人もいた。

今回の震災では、大崎市社協から職員を何カ月も派遣していただき、助けていただいた。今度は我々が助ける番だが（災害が起きたら）まず自分が助かり、生きられるようにしてほしい。

阿部　由紀 氏

一人一人にアプローチすることが大事

大崎市社会福祉協議会本所地域事業課の鹿野渉主事（当時）は、本会本部がある大崎市古川保健福祉プラザ・fプラザも避難所になった。大崎市災害ボランティアセンターでは、家屋内の片付や瓦礫の撤去作業、マッサージなどのボランティアを延べ2568人受け付けた。春休みになったこともあり、高校生や大学生、親子一緒の活動もあった。今後、若い世代に地域でどのように活動してもらうか、地域の担い手として育成していく役割も考えなければならない。

昔は、隣近所でごはん（米飯）や醤油の貸し借りが自然な形で行われ、地域の見守りにもなっていた。そのころの形を再現しようと、地域見守りネットワーク事業「いのちのバトン」として、あんしんカード入りのバトンを配布しながら安否確認、見守り活動を推進している。地域の中で見守りをすることを一人一人が気に掛け、行動に移すことが大事。

震災を経験した我々は、今後の備えなどを次の世代に伝えないといけない。社協もその声を全国に発信していきたい。

鹿野　渉

地域の担い手を育成

おおさき希望の木プロジェクト

来場者にリンゴ型ポストイット（付せん）を数枚配布。震災経験を踏まえた「備え」と「次の世代へ伝えなければいけないこと」の2つのテーマで意見を書いてもらい、巨大な木の絵に張り付けてもらった。

〈次号掲載〉

古川中央居宅介護支援事業所 移転のお知らせ

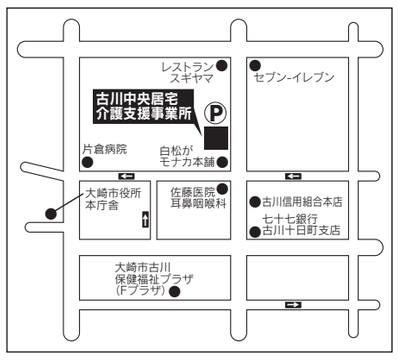
この度、業務の拡張及びご利用者様、各関係者様への利便性を考慮して、下記により事業所を移転いたしました。

平成24年4月16日㈪より新事務所において営業を開始しておりますのでご案内いたします。

今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

業務移転日　平成24年4月16日㈪より
新住所　〒989-6165 宮城県大崎市古川十日町4番21号
（白松がモナカ本舗 古川店 様 隣）
TEL　0229－91－8181 ※電話番号の変更はありません。
FAX　0229－87－3981

介護に関するご相談やケアプラン作成などについて、お気軽にご相談ください。



職員募集

福祉の職場で働きたい方を募集しています。
お気軽にお問い合わせ下さい。

◆職　種　保健師・看護職員・介護職員・生活支援員
◆勤務地
- 地域包括支援センター（大崎市／古川・岩出山・田尻）※保健師
- 特別養護老人ホーム 敬風園（大崎市鹿島台）
- 特別養護老人ホーム 楽々楽館（大崎市古川）
- 短期入所生活介護施設 楽々楽館（大崎市古川）
- 通所介護事業所（デイサービスセンター）（大崎市／古川・松山・鹿島台・岩出山・鳴子地域）
- 訪問介護事業所等（大崎市／古川・松山・鹿島台・岩出山・鳴子・田尻地域）
- 生活介護事業所（大崎市鹿島台）
- 共同生活介護（援助）事業所【ケアホーム】（大崎市／古川・鹿島台地域）

※なお、勤務地については相談により決定いたします。

◆応募条件
- 保 健 師……保健師資格
- 看護職員……看護師資格（看護師・准看護師）
- 介護職員……特になし（ホームヘルパー2級以上尚可）
- 生活支援員……特になし（ホームヘルパー2級以上尚可）

◆待　遇
- 保 健 師……200,000円～（経験に応じて）
- 看護職員……看護師 214,200円～　准看護師 180,600円～
- 介護職員……138,600円～　※月額換算、月平均労働日数21日
- 生活支援員……149,100円～　※月額換算、月平均労働日数21日

その他 夜勤手当有（※保健師を除く）、交通費支給有り、社会保険等完備
詳細については、当会給与規程に基づき決定いたします。

◆年齢／性別　不　問
◆応　募　電話連絡の上、履歴書・資格証（写し）をご持参ください。

【連絡先】社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会 職員厚生課
〒989-6154 宮城県大崎市古川三日町二丁目5-1（大崎市古川保健福祉プラザ 3階）
☎ 0229-21-0550

社会福祉寄附者ご芳名

あたたかい善意、ありがとうございました。

平成24年3月16日～4月19日受付分

◆寄附金

（敬称略）

◎古川支所
- 錦流熊谷旭英舞踊研究所　五〇、〇〇〇円　三〇、〇〇〇円

◎三本木支所
- 古扇会
- 大友　とみ子　一〇、四七八円

◎岩出山支所
- いわでやま舞踊協会　水木歌順、水木露歌、揚蝶文鈴、花松紀文富、ひまわり会、藤木寿美城、水木夢歌、佐々木安子　四〇、〇〇〇円
- 菅原　民四郎　一、〇〇〇円

◎鳴子支所
- 遠藤　貞雄　三〇、〇〇〇円
- 匿　名　一〇、一九一円

◆物品寄附

（敬称略）

◎古川支所
- 安部　きみ子……雑巾20枚
- 佐藤　哲……書籍5冊
- 大場　和之……介護用品、肌着類
- 古川地域婦人団体連絡協議会　会長　大友 富子……タオル500枚
- 古川ライオネスクラブ…タオル類
- 佐々木　慶次……介護用品類
- ㈲花秀……鉢植1点
- 宮城シマダヤ㈱　代表取締役社長　伊藤　徳義……ミニ細切うどん12000食、書籍10冊

◎鹿島台支所
- 小野　たか子……介護用品182点、衣類12点
- 大場　みつゑ……使い捨てくず入れ1500枚

◎鳴子支所
- 船島　フキ子……タオル30枚
- 大崎市立鳴子小学校6学年一同……鳴子小学校6年生卒業記念カレンダー1部

◎敬風園
- 小野寺　けい子……巾着袋30袋
- 梁田　よし子……介護用品19袋
- 佐藤　忠治……オムツ等10袋

古扇会　様

いわでやま舞踊協会　様

東日本大震災義援金 寄附者ご芳名

平成24年3月16日～4月19日受付分

【義援金】（敬称略）

◎本所
- 湯山　昭雄　一〇、〇〇〇円

わたしたちは福祉活動を応援しています

鳴子温泉郷　中山平温泉
しんとろの湯
〒989-6832 宮城県大崎市鳴子温泉字星沼18-9
ご利用時間　AM9:00～PM9:30
Tel:0229-87-1126 Fax:0229-87-1127

ハードウェア いちのつぼ
宮城県大崎市鹿島台広長字内の浦149-1
TEL(0229)56－2027㈹
FAX(0229)56－2500

Art of Hospitality
芙蓉閣
大崎市古川駅前大通6-2-8 Tel.0229(23)0550
http://www.k-khf.jp

健康と快適の明日を考える
WATAKYU SEIMOA
ワタキューセイモア株式会社
東北支店　〒989-3124 仙台市青葉区上愛子字上遠野原9-51
TEL 022-392-2141㈹　FAX 022-392-6662
業務案内　寝具設備・患者衣に関する一切の業務　各種介護用品の販売

広告掲載いたします。

「おおさき福祉のページ」では、有料広告の掲載をいたします。事業主の皆様の事業PRの媒体として、是非ご活用ください。なお、広告における収入は、広報紙のより一層の充実に活用させていただきます。

【お問い合わせ】
社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会
総務企画課　TEL 0229－21－0550
FAX 0229－24－1158